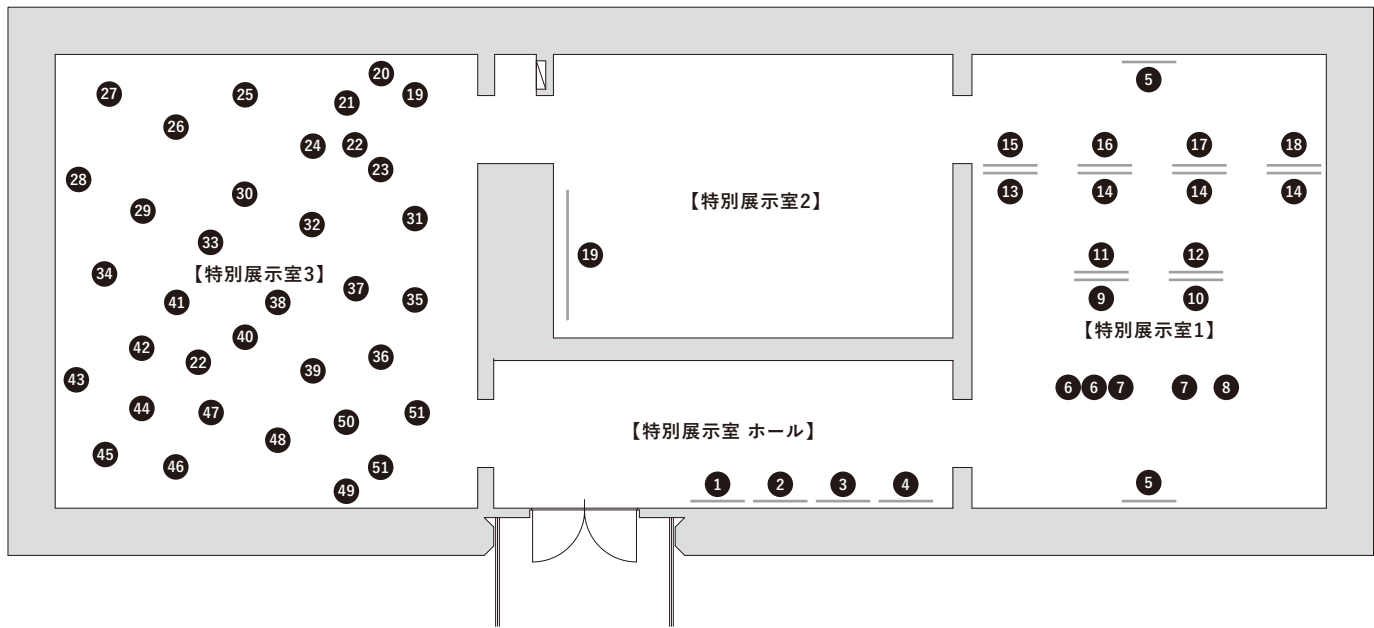


石本 藤雄 展

マリメッコの花から陶の実へ

2018.10.27(土) - 12.16(日)

【特別展示室作品説明】



特別展示室 ホール

本展ポスターで使用されているマリメッコのファブリック“Onni[Happy]”(1975)[②](#)[③](#)と“Suvi[夏]”(1977)[①](#)[④](#)は、マリメッコでの活動を開始して間もない石本が、アメリカのハウスウェアブランドのために描き起こしたものの。マリメッコのライセンス商品だったため、デザイナー名の記載がなく石本の作品として流通はしていなかった。今回、マリメッコの提案により、リプロダクションが実現。来春限定での商品化も控えており、本展では特別に作りたてのファブリックを公開することができました。展示室3の“Kukkaketo[花畑]”(1975)[⑩](#)も同様にこの春に向けて限定復刻されます。

特別展示室2

石本が作品を完成させるまでに思いを巡らせる様子は、残された大量の原画から見て取ることができる。この部屋では、繰り返し描かれたドローイング、サインマーカーやペンで試された色彩の実験、コピーを何度もとって、ネガポジを反転させたり、色を分解したりなど、モチーフひとつからできることを突き詰めていった軌跡が残されている。

その他、フィンランドでの個展、オペラを手がけた際のポスターなど貴重な資料、本展に先立ちフィンランドで撮影した映像、代表作Lepo[休息](1991)[⑬](#)の11パターンが参考資料として展示されている。

特別展示室1、特別展示室3

マリメッコを退社するまでの約30年間に石本は400以上ものテキスタイルデザインを行った。本展では、前衛的なモチーフから伝統の再生まで、スタイルにこだわらない作風の約70本を紹介、石本の感性の自由さ、瑞々しさを堪能できる。

主なファブリックの説明

[⑥](#)[⑦](#)[⑧](#) Kesästä kesään [夏から夏へ](1991)

フィンランドの1年の始まりである夏を起点に、四季を表現したもので4本で一組。フィンランド独立75周年記念で制作した。春先には生い茂り、夏には強い風に倒れ、やがて霜をかぶって、雪に埋もれる様子が描かれ、ポジネガ両方で魅せる。春、夏、冬については、西川産業が葦のファブリックを提供して作ったものがある。

[⑨](#) Jama [山](1977)

マリメッコ入社後すぐに浮かんだデザインだったが、マリメッコ25周年で発表することとなり、コレクション入りまで時間がかかった。アルミ・ラティアが名前をつけた、初期の代表作。Sumo[相撲]という作品とともに発表された。

[⑮](#) Sinitaivas [青の広がり](1985)

発想は日本のぼち袋で、和紙に表現された美しいグラデーションをファブリックで出したかった。青空コレクション。現在も住むアパートにもうひとつの部屋をマリメッコが借りてくれていて、そこを使って仲間を呼び、中庭に作品を洗濯物のように吊るしてコレクションの発表を行った。

[⑰](#) Lepo [休息](1991)

25年続いたロングセラー。白地に黒(グレー)のものをもっとも長期にわたって販売された。強いラインが映えるSuuri Taiga[⑮](#)に近いが、一層軽やかで繊細に仕上がっている。本展では11色のラインアップをすべて展示している。

[⑳](#) Kukkaketo [花畑](1975)

来春マリメッコ社で復刻を予定している活動初期のデザイン。当時、Onniのペアとしてシャツの柄に使用したが、Onniと異なり、その後マリメッコのコレクションに入った。花のサイズを小さくするなどアレンジされ、復刻も数回行われている。花卉が4枚というのはその後の花の基本になっており、思い返せばその原型は、子供の頃地面に描いていた花と同じである。

[㉒](#) Selänne [水上から見た遠景](2003)

水平線で上下シンメトリーになる、水面に映った情景を描いた。その線を境にして、新しい空間ができる様子を見ていただきたい。ボートに乗っているような、あるいは対岸からこちらを見るような感覚でもよい。

[㉓](#) Kesanto [放牧地(休耕地)](1988)

じゃがいもを作る畑などで、ある一定期間何も育てていないと自然に雑草が生えてくる様子を、写生風に水彩で描いた。中には、春の植物も、夏の植物も混ざっている。

[㉔](#) Ostjakki [ウラル山脈を超えてロシアの北にあるフィン族の名前から引用](1983)

色の配色は、折り紙を使って提示した。マリメッコ担当者が選んだ8色のうち、オレンジが想定と違っていたが、今思うとそれが効いている。これは日本の紺調の筆のタッチを残した「北斗七星」というシリーズのひとつ。

[㉚](#) Kuuma [暑](1978)

大きな花は、ポタンの花だっただろうか。花があって蕾があって、というのは、ヨーロッパの民族衣装のパターンとしては馴染み深いもの。

[㉛](#) Nauru [笑い](1981)

ストライプの柄Ullo(はずかしい)にコーディネートするために、色を使ったストライプの柄を作った。1枚に2色のストライプを組み入れ自身で版を作成。さらに縦に続く同色ストライプの並びをずらして立体感を生んだ。コンピューターを使わず計算が完全ではなく、手ならではのずれがあって生き生きとして見える。

[㉜](#) Seven Flowers [セブン・フラワー](1979)

アルミ・ラティアから依頼されたテーマで、フィンランドの伝統に沿った寓話性の高い作品。夏至祭の前夜に少女が枕の下に7つの草花を敷いて眠ると結婚できるという言い伝えから、可憐な花のパターンを寝具にあしらった。アメリカ向けに販売された。

[㉝](#) Sarastus [夜明け](1980)

それまでの石本作品とは様相の異なるデザインで、マリメッコにとっては挑戦的な作品。そして、販売も思わしくはなかったが、石本はむしろこのようなテイストが好きで、カイ・フランクがその年のデザイン5選に選んでくれた。

[㉞](#) Juhla [祭日、お祭り](1998) [Korsi](#) [ストロー](1989)〈展示なし〉 [Ullo](#) [恥ずかしい](1981)〈展示なし〉

ストライプが好き。マリメッコのコレクションにはないので、努めて何種もつくったが、結果的にロングセラーになっている。日本には元来お祝いごとでは紅白の幕があり、それになぞらえた太めのラインのJuhla。より細い、麦をイメージしているKorsi。そして、マリメッコのTシャツといえば横線(ボーダー)だが、それを縦にし筆線をあえて残したUllo。普通は横ボーダーであるところ、そうでないことがなんとなく気恥ずかしく、タイトルは「恥ずかしい」となった。

[㉟](#) Neidonkorento [トンボ](2002)

トンボの飛行跡は、前に進んでちょっと戻る、というように四角を描くようなイメージがあり、その重なる様子を描いた。ぐるぐると輪を描くように回る蝶の飛行跡をイメージしたButterfly[蝶々](1999)とセットの作品。

[㊱](#) Kuiskaus [ささやき](1981)

ペアのプリントがあり、そちらはHuuto[叫び]と題される。スウェーデン映画作家ペルイマンの作品タイトルから、当時のアートディレクターがつけた名前。

[㊲](#) Koski [溪流](1986)

墨流しという古くからある手法をファブリックで応用した。二度刷りというプリントテクニックでほかにないオリジナリティを追求。60mで初めてリピートするというファブリックには到底ありえない質感を出すことに成功した。算数がとても好き、という石本が本気で遊んだ作品。

[㊳](#) Kuja [路地](1976)

Kuumaと時期に近い初期のもの。ポーランドのとある村への旅で見かけた、色彩豊かな家や庭の様子を、明るい油性マーカーで描いた図がオリジナル。本展示室2にトレーシングペーパーに描いた原画が展示されている。

[㊴](#) Suuri Taiga [大草原](1992)

石本がもっとも多用するというファブリックデザインであるTaiga[草原](1978)の応用作品。日本の夏の水田に、青々とした稲が無限に広がり、風を受けてサワサワと動く様子をイメージしている。日本の記憶から描いた。タイトルは、60年代末 寺山修司が作詞したカルメン・マキの歌「山羊にひかれて」の一節“大草原に吹く風まかせ”から引用。実はカルメン・マキのファンだった。

出品リスト

特別展示室 ホール

番号	作品名	年記	素材
1・4	スヴィ(Suvi／夏)	1977年	綿(2種)
2・3	オンニ(Onni／幸せ)	1975年	綿(2種)

特別展示室1

番号	作品名	年記	素材
5	コレクション「シュダントルヴィ(Sydäntalvi／真冬)」:ウオマ(Uoma／河床)	1986年	綿(2種)
6	ケサスタ・ケサアン1(Kesästä kesään (1)／夏から夏へ1)	1991年	麻／麻綿(2種)
7	ケサスタ・ケサアン2(Kesästä kesään (2)／夏から夏へ2)	1991年	麻綿(2種)
8	ケサスタ・ケサアン4(Kesästä kesään (4)／夏から夏へ4)	1991年	麻
9	ヤマ(Jama／山)	1977年	綿
10	スモウ(Sumo／相撲)	1977年	綿
11	スデンマリヤ(Sudenmarja／オオカミのイチゴ)	1993年	麻綿
12	ウコンハツツ(Ukonhattu／トリカブト)	1993年	綿
13	コレクション「マイセマ(Maisema／風景)」:リヌンペサ(Linnunpesä／鳥の巣)	1982年	綿
14	コレクション「マイセマ(Maisema／風景)」:マイセマ	1982年	綿(3種)
15	コレクション「シニタイヴァス(Sinitaivas／青の広がり)」:イルマ(Ilma／天気)	1985年	綿
16	コレクション「インカルフ(Isokarhu／北斗七星)」:カルフサーリ(Karhusaari／[島の名前])	1983年	綿
17	ツーリスパー(Tuulispää／一吹の風)	2004年	綿
18	コレクション「シニタイヴァス(Sinitaivas／青の広がり)」:ヘッレ(Helle／炎天)	1985年	綿

特別展示室2

番号	作品名	年記	素材
19	レポ(Lepo／休息)	1991年	綿(10種)不明(1種)
	石本藤雄 デザイン資料一式		
	マリメッコ25周年記念ポスター	1976年	
	「蝶々夫人」公演ポスター	1980年	
	カイ・フランク賞受賞記念個展ポスター	1994年	
	個展「On the Road」ポスター	2001年	

特別展示室3

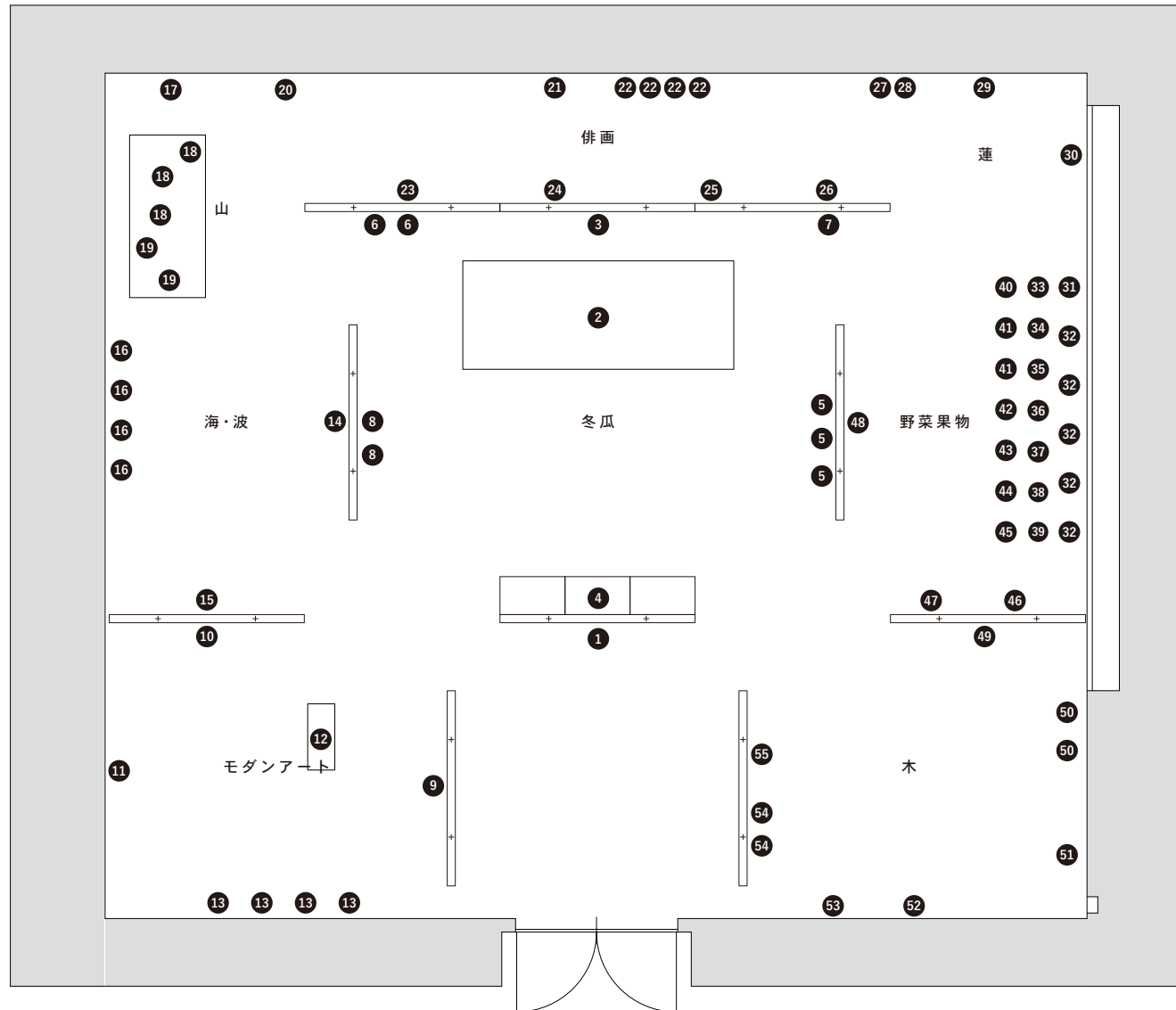
番号	作品名	年記	素材
19	レポ(Lepo／休息)	1991年	綿
20	クッカケト(Kukkaketo／花畑)	1975年	綿
21	フルミオ(Hurmio／夢中)	1999年	綿
22	セランネ(Selänne／水上から見た遠景)	2003年	綿(2種)
23	ケサント(Kesanto／放牧地(休耕地))	1988年	綿
24	イリス・ヤポニカ(Iris Japonica／シャガ)	2004年	麻
25	ラフデ(Lähde／泉)	1999年	麻
26	ヴィレ(Vire／幡がなびく)	1997年	麻
27	コレクション「インカルフ(Isokarhu／北斗七星)」: オストヤッキ(Ostjakki／[ウラル山脈を超えてロシアの北にあるフィン族の名前から引用])	1983年	綿
28	ルウスマヤ(Ruusumaja／バラの館)	1995年	麻綿
29	リナンピスト(Linnanpuisto／城の庭園)	1989年	綿
30	パラティッシ(Paratiisi／楽園)	1996年	綿
31	スヴィスヌンタイ(Suvisunnuntai／夏の日曜日)	1998年	綿
32	クウマ(Kuuma／暑)	1978年	綿
33	ナウル(Nauru／笑い)	1981年	綿
34	シイメス(Siimes／木陰)	1995年	綿
35	セブン・フラワー(Seven Flowers)	1979年	綿
36	イロ(Ilo／よろこび)	1981年	綿
37	サラスツス(Sarastus／夜明け)	1980年	綿
38	プウタルハクツト(Puutarhakutsut／ガーデンパーティー)	1989年	綿
39	ヴィッリ ヤ ヴァパー(Villi ja vapaa／おてんば)	2003年	綿
40	パユ(Paju／柳)	1988年	綿
41	コレクション「インカルフ(Isokarhu／北斗七星)」:ヤアヴオレット(Jäävuoret／氷山)	1983年	綿
42	ユフラ(Juhla／祭り、お祭り)	1998年	麻綿
43	サラヴァ(Salava／[柳の一種])	1988年	ローン
44	ネイドンコレント(Neidonkorento／トンボ)	2002年	麻綿
45	クイスカウス(Kuiskaus／ささやき)	1981年	綿
46	コスキ(Koski／溪流)	1986年	綿
47	ロンポロ(Lompolo／ラップランドの小さな湖)	1983年	綿
48	レフムス(Lehmus／菩提樹)	1997年	麻
49	クヤ(Kuja／路地)	1976年	綿
50	ライネヘフティヴァ(Lainehtiva／うねり)	1988年	綿
51	スウリ タイガ(Suuri Taiga／大草原)	1992年	綿(1種)/紗(1種)

石本藤雄展

マリメッコの花から陶の実へ

2018.10.27(土) - 12.16(日)

【常設展示室作品説明】



展示室外展示

番号	作家名	作品名	年記	素材	備考
	石本藤雄	ヤマ(Jama/山)	1977年	綿	
	石本藤雄	クイスカウス(Kuiskaus/ささやき)	1981年	綿	
	石本藤雄	オンニ(Onni/幸せ)	1975年	綿(2種)	

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
1	石本藤雄	[オオイヌノフグリ]	2018年	陶器/レリーフ(組作品)	

冬瓜

2	石本藤雄	[冬瓜]	2015, 2017年	陶器/立体(17点)	
3	三輪田米山	福祿寿	1897年	紙本墨書/軸(三幅対)	
4	土田麦徳	柳蔭	1921年	絹本着色/六曲屏風一雙(右隻)	
5	石本藤雄	[柳]	2018年	陶器/角皿(3点)	
6	石本藤雄	[冬瓜]	2017年	レリーフ(2点)	
7	石本藤雄	[オオイヌノフグリ]	2017年	陶器/レリーフ	
8	石本藤雄	[円盤]	2018年	陶器/丸皿(2点組)	

モダンアート

9	斎藤義重	work	1961年	油彩/合板	
10	菅井汲	EiYU	1968年	油彩/画布	
11	白髪一雄	屋島の戦い	1967年	油彩/画布	
12	石本藤雄	[冬景色より]	2008年	陶器/立体	個人蔵
13	石本藤雄	[色皿]	2017/2018年	陶器/楕円皿(4点)	

海・波

14	石崎重利	織立つ瀬戸	1928年	木版/紙	
15	野間仁根	来島水道仲渡島附近	1967年	油彩/画布	
16	石本藤雄	[海]	1999/2018年	陶器/レリーフ(4点)	

山

17	横山大観	曳船	1905年	絹本着色/軸	
18	石本藤雄	[山]	2018年	陶器/立体(3点組)	
19	石本藤雄	[山]	1999年	陶器/立体(2点)	個人蔵

20 石本藤雄 [紅白花]

20	石本藤雄	[紅白花]	2017年	陶器/レリーフ	
----	------	-------	-------	---------	--

俳句・梅

21	正岡子規	梅花図	明治時代中期頃	紙本水彩/軸	
22	石本藤雄	[梅]	2017年	陶器/レリーフ(4点)	
23	河東碧梧桐	俳句「温泉巡りして戻りし部屋の桃の活けてある」	大正時代	紙本墨書/軸	
24	物外不遷	人物画賛	江戸時代後期	紙本墨画墨書/軸	
25	池田遙邨	蚊帳の中までまん丸い月昇る山頭火	1988年	紙本着色/額	
26	種田山頭火	俳句「ほろほろとして木の葉ふる」		紙本墨書/軸	寄託作品

27 石本藤雄 [ぶどう]

27	石本藤雄	[ぶどう]	2017年	陶器/レリーフ	
28	石本藤雄	[赤い実]	2017年	陶器/レリーフ	

蓮

29	天野方壺	蓮池図	明治時代中期頃	紙本墨画墨書/軸	
30	石本藤雄	ラフデ(Lähde/泉)	1999年	プリント/麻	

野菜・果物

31	石本藤雄	[ヤマモモ]	2018年	陶器/角皿	
32	石本藤雄	[みかん]	2018年	陶器/角皿(5点)	
33	石本藤雄	[青い実]	2017年	陶器/角皿	
34	石本藤雄	[瓜]	2017年	陶器/角皿	
35	石本藤雄	[花]	2017年	陶器/角皿	
36	石本藤雄	[南天]	2017年	陶器/角皿	
37	石本藤雄	[白瓜]	2015年/着彩2017年	陶器/角皿	
38	石本藤雄	[色皿(5色)]	2017年	陶器/角皿	
39	石本藤雄	[ヤマモモ]	2017年	陶器/角皿	
40	石本藤雄	[梅]	2017年	陶器/角皿	
41	石本藤雄	[かぼちゃ]	2016年	陶器/角皿(2点)	
42	石本藤雄	[ストライプ]	2017年	陶器/角皿	
43	石本藤雄	[赤い実]	2017年	陶器/丸皿	
44	石本藤雄	[ぶどう]	2017年	陶器/丸皿	
45	石本藤雄	[ヤマモモ]	2017年	陶器/丸皿	
46	福田平八郎	無花果	1957年	紙本着色/額	武智コレクション
47	福田平八郎	南瓜天津桃	1966年	紙本着色/額	武智コレクション
48	黒光茂樹	秋茄子	1975年	紙本着色/額	

木

49	土田次枝	フィレンツェ郊外	1970年	油彩/画布	
50	石本藤雄	[南天]	2018年	陶器/丸皿(2点)	
51	石本藤雄	セラanne(Selanne/水上から見た遠景)	2003年	プリント/綿	
52	ポール・セザンヌ	水の反映	1888-90年頃	油彩/画布	
53	石本藤雄	[雪の吹きだまり]	1996年	陶器/角皿	個人蔵
54	石本藤雄	[オリブ]	2018年	陶器/レリーフ(2点)	
55	柳瀬正夢	木と降る光	1914年	油彩/板	